

平成25年 2月

工藤明子 学位論文審査要旨

主 査 池 口 正 英
副主査 梅 北 善 久
同 原 田 省

主論文

Dual inhibition of phosphatidylinositol 3'-kinase and mammalian target of rapamycin using NVP-BEZ235 as a novel therapeutic approach for mucinous adenocarcinoma of the ovary

(卵巣粘液性腺癌に対するPI3K/mTOR阻害剤NVP-BEZ235を用いた新規治療戦略)

(著者：工藤明子、大石徹郎、板持広明、佐藤誠也、浪花潤、佐藤慎也、島田宗昭、
紀川純三、原田省)

平成26年 International Journal of Gynecological Cancer 掲載予定

参考論文

1. Activation of the mitogen-activated protein kinase kinase/extracellular signal-regulated kinase pathway overcomes cisplatin resistance in ovarian carcinoma cells

(MEK/ERK経路の活性化は卵巣癌におけるシスプラチン耐性を克服する)

(著者：野中道子、板持広明、川口稚恵、工藤明子、佐藤誠也、上垣憲雅、浪花潤、
佐藤慎也、島田宗昭、大石徹郎、寺川直樹、紀川純三、原田省)

平成24年 International Journal of Gynecological Cancer 22巻 922頁～929頁

2. Checkpoint kinase inhibitor AZD7762 overcomes cisplatin resistance in clear cell carcinoma of the ovary

(チェックポイントキナーゼ阻害剤AZD7762は卵巣明細胞腺癌におけるシスプラチン耐性を克服する)

(著者：板持広明、西村真由美、近江奈央、加藤みさき、大石徹郎、島田宗昭、
佐藤慎也、浪花潤、佐藤誠也、工藤明子、紀川純三、原田省)

平成26年 International Journal of Gynecological Cancer 24巻 61頁～69頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は卵巣粘液性腺癌由来細胞株とヌードマウスの皮下移植モデルを用いて、PI3KとmTORの両阻害剤であるNVP-BEZ235 (BEZ235)の有効性を検討した論文である。BEZ235添加により細胞増殖が著明に抑制されるとともに、アポトーシスの誘導が観察された。BEZ235と抗がん剤の併用添加は細胞増殖抑制において相加以上の効果を示した。BEZ235経口投与は皮下移植モデルの腫瘍発育を抑制した。したがって、卵巣粘液性腺癌に対してBEZ235が有効であることが明らかとなった。

本研究は新知見に富むものであり、その成果は婦人科腫瘍研究に貢献するとともに、学術の水準を高めたものと認める。